アトラクション

（公財）日本学校体育研究連合会

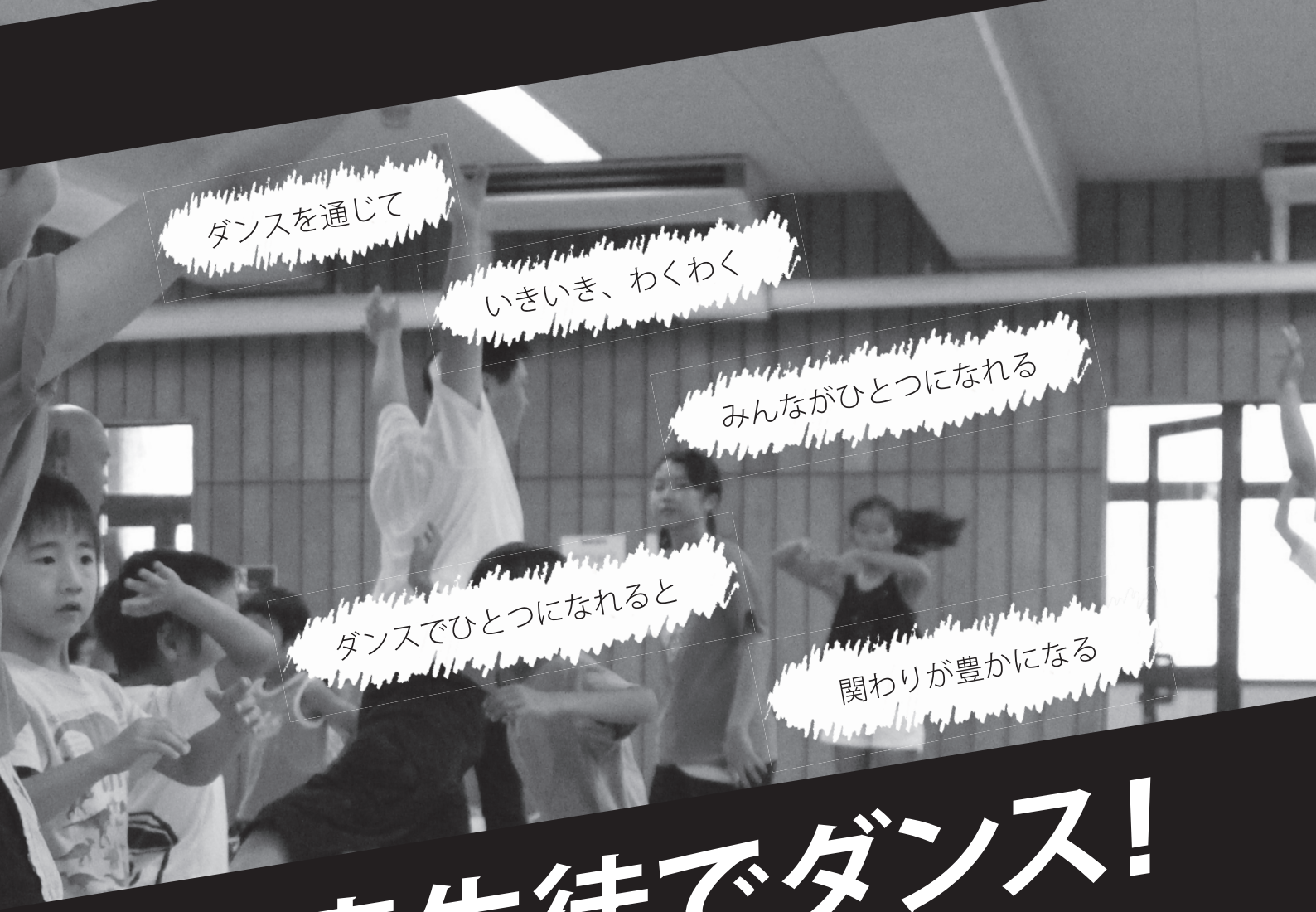
全国学校体育研究大会 東京大会 アトラクション

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の

アトラクション概要

スポーツ基本法の制定及びスポーツ基本計画の策定により、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた学校教育の役割が明確になりました。それにより、幼児期から青年期までを見通し、発達の段階を踏まえ系統性のある指導の必要性が顕著になりました。

その中で、全国学校体育研究大会東京大会実行委員会では、全国の皆様に、様々な年齢の子どもたちが、国技館の舞台でダンスを披露することを目指し、その成果を見てもらおうと、ダンス未経験の幼稚園から高等学校の児童・生徒でアトラクションを行うこと になりました。今回、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童・生徒でダンスという大規模な企画を行うために、たくさんの方々の協力を得て、当日の舞台を迎えました。



児童生徒でダンス!

参加校　幼稚園：**港区立港南幼稚園**　小学校：**港区立芝浦小学校、港区立港南小学校**
中学校：**港区立高松中学校、港区立高陵中学校**
高等学校：**十文字高等学校**　特別支援学校：**東京都立港特別支援学校**

作品の紹介

年齢差、技能差をなくすために、どの年齢の児童・生徒でも知っている「ドレミの歌」を 採用。

- 歌いながら練習できた。
- ドの振り、次はレの振りと子どもたちが作品の構造を理解しやすかった。
- それぞれの年齢でドの振りの担当、レの振りの担当といったグループ分けを行い、異なる年齢集団を作りやすかった。
- 下級生は上級生に憧れをもち、上級生は下級生に手本となるように行動するようになった。

■ 協力者・協力団体

▶ 演出・振付

堀向麻未

福山雅治、平井堅、YUKI、CHEMISTRYなど、Jazz&HipHopのダンスベースにパフォーマーとして活動後、MVなどの振付からLIVEやショーの演出、シンガー、女優などへのダンス指導を手掛ける。

▶ 映像作成

SHOWMOV

小川翔平・SHOWMOV

「喜怒哀楽と愛を映像の落とし込みより人間らしく」をテーマに映像制作を行う。今回のアトラクションでは、子どもたちの練習用教材ビデオおよび、本作品ができるまでの映像を作成。

▶ こどもサポーターの育成と活用（ダンス指導の外部支援員）

東京学芸大こども未来研究所 Gakugei Univ. Children Institute for the Future

NPO法人東京学芸大こども未来研究所

2009年設立。子どもにかかわるヒト、モノ、コトを東京学芸大の知を活用して研究開発し、子どもの遊びと学びを深めるお手伝いを行う。今回のアトラクションでは、学校の先生のサポートをするための、こどもサポーターを育成し、活用するという立場で参加。

▶ 音楽編集

Music Arrangement Factory SOUND PARK TOKYO

SOUNDPARK

2008年より音源制作業を開始。現在に至るまで、公演用音源（ダンス・ファッションショー、舞台など）、効果音（ゲーム、アプリケーションなど）、オリジナルトラックを制作。楽曲の音質 / 音圧の補正・曲間調整などの音源編集業も行い、個人～企業まで多岐にわたる依頼を得る。

デザイン：滝澤大地

解　説

（公財）日本学校体育研究連合会

解　説

「学習指導要領と体力向上」

文部科学省スポーツ・青少年局体育参事官付教科調査官

石 川　泰 成

シンポジウム

テーマ　「健やかな体の育成を目指して」

コーディネーター

白 旗 和 也　（日本体育大学教授）

シンポジスト

山 口 由美子（神奈川県秦野市立本町幼稚園副園長）

関 口 亮 治　（東京都足立区立新田小学校主幹教諭）

田 村 新 一　（秋田県大館市立東中学校教諭）

後 藤 晃 伸　（愛知県立一宮高等学校《定時制》教諭）

内 田 匡 輔　（東海大学専任准教授）

シンポジウム

テーマ

「健やかな体の育成を目指して」

健やかな体とかかわりの深い『体力』を中心に据えながら、「発達の段階に応じた体力をどのようにとらえるべきか」「体力を養うための具体的な方策」について、学校体育を中心にその他の条件や要素を加味しながら話を展開したい。

体力調査結果＝体力ととらえがちであり、平均値だけが一人歩きしている現状も見受けられる。本来、体力は一人一人にとって、必要な体力にも違いがあると考えられることから、幼児期から大学までを俯瞰し、適切な体力の向上を図るための学校（園）の役割について考えたい。

コーディネーター

日本体育大学　教授　　白　旗　和　也

＜略歴＞

東京学芸大学教育学部初等教員養成課程Ａ類保健体育科卒業
東京学芸大学大学院教育学研究科保健体育専攻体育科教育コース修了
昭和６２年４月　武蔵野市立第一小学校　教諭
平成　５年４月　三鷹市立第三小学校　教諭
平成１３年４月　新宿区立四谷第六小学校　教諭
平成１４年４月　東京都教育庁指導部　長期研修生
平成１５年４月　世田谷区教育委員会　指導主事
平成１８年４月　三鷹市立北野小学校　副校長
平成２０年４月　文部科学省スポーツ青少年局体育参事官付　教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官
平成２５年４月　日本体育大学　教授
平成２５年　「デジタル教材作成委員会」主査　文部科学省

＜主な著書＞

平成23年　「小学校体育授業の重点指導」共著　白旗和也、今関豊一，佐藤豊　明治図書出版
「新評価規準を生かす授業づくり　小学校編」　共著　田中孝一、筒井恭子，白旗和也，杉田洋（株）ぎょうせい
平成24年　「これだけは知っておきたい体育の基本」　単著　白旗和也　東洋館出版
「授業における「思考力・判断力・表現力」」共著　白旗和也，笠井健一，水戸部修治，津田正之，　ほか　東洋館出版

＜研究業績＞

平成24年　「小学校教員の体育科学習指導と行政作成資料の活用に関する研究」単著　白旗和也
日本スポーツ教育学会　スポーツ教育学研究　第32巻第2号

提言テーマ

遊びを通して体を動かす楽しさを味わうための
教師の援助について

シンポジスト　神奈川県秦野市立本町幼稚園副園長　山口由美子

＜学歴＞
京浜女子大学家政学部児童学科卒業
＜職歴＞
昭和63年　秦野市立南幼稚園　教諭
平成８年　秦野市立西幼稚園　主任教諭
平成14年　秦野市立みどり幼稚園　主任教諭
（幼保一体化施設）
平成18年　秦野市立大根小学校　教諭
平成20年　神奈川県教育委員会　指導主事
平成24年　秦野市教育委員会　指導主事
平成25年　秦野市立本町幼稚園　副園長

□主な著書・研究実績・委員等
・小１プロブレムを克服する！幼小連携活動プラン　小林宏己編著（2009.6）
・まなびと学びをつなぐ　小学校と就学前教育の連携指導資料集・実践資料集（神奈川県教育委員会）（2008･2010）
・幼稚園教育指導資料第３集「幼児理解と評価」（文部科学省）作成協力者（2010）
・幼児期、児童期に育むべき豊かなスポーツライフの素地とは何か（初等教育資料）（2013.2）
・幼児期運動指針ガイドブック（文部科学省）策定ワーキンググループ委員（2012.3）
・文部科学省委嘱事業「就学前教育と小学校の連携に関する総合的調査研究」（平成18年度）

□発表要旨

キーワードは「遊びを通して楽しく体を動かすこと」と「家庭との連携」

時代の変化の中で子どもを取り巻く社会環境や生活様式が変わってきています。そのことが影響し子どもの生活リズムの乱れや運動能力の低下などを指摘されています。幼児期は、生涯にわたる健康の基礎をも培う時期であり、ヒトが成長する中で心と体が著しく発達するといわれています。この時期の発達の特性に応じた運動的な遊びや多様な経験や体験をすることが重要と考えます。

また、幼児期は、「幼児期運動指針ガイドブック」にも書かれているように心と体が相互に密接に関連し合いながら総合的に発達していく時期です。

本園の子どもたちの中には、生活リズムが乱れ登園時刻がぎりぎりだったり、遅れてきたりする幼児がいます。体も心も起きていない状態なのでほかの幼児と比べると遊びだす時間が遅くなり、なかなか友達と一緒に動くことができず、遊びの楽しさを共有することができない姿をよく見かけます。片付けの頃になると遊びが充実してくるのですが、そのころには遊びを中断することになってしまうのです。心も体も不完全燃焼で一日が終わってしまう「バットサイクル」の繰り返しです。

一方、生活リズムがきちんとしている家庭の子どもは、登園後の朝の集まりでの返事も元気で『今日は、○○ちゃんと○○して遊ぼう』と目的をもって遊びに取り組みます。友達とのかかわりも持てて遊びが充実し、心も体もいつも完全燃焼で「グッドサイクル」の繰り返しです。

このことから、幼児期に遊びをとおして自ら体を楽しく動かして遊ぶには、適切な環境の下で様々な遊びに取り組むことだと考えます。そのためには、幼稚園や保育所の指導者が、どのようなことができるかを考えていきたいと思っています。

提言テーマ

よりよい体育の授業づくりを目指して

シンポジスト　東京都足立区立新田小学校　主幹教諭　関口　亮治

＜学歴＞
東京学芸大学教育学部Ａ類保健体育科卒業
＜職歴＞
昭和63年　大田区立大森第五小学校教諭
平成６年　北区立堀船小学校教諭
平成14年　足立区立梅島第二小学校主任教諭
平成20年　足立区立新田小学校主幹教諭

□主な著書・研究実績・委員等
学校体育実技指導資料第８集　ゲーム及びボール運動
文部科学省　作成協力者
小学校体育授業の重点指導　白旗和也編著
明治図書　原稿執筆
足育指導資料作成委員（平成23年度より）
「東京の教育２１」研究開発委員会（平成17年度）
東京都研究開発委員会（小学校体育）（平成25年度）

□発表要旨

１　現状

（１）児童

○体を動かすことが好きな児童が多いが、運動経験、運動に対する意欲の差が大きい。その結果、運動技能の差も大きい傾向にある。学年が上がるにしたがって、「挑戦しよう」「克服していこう」という粘り強い取り組みができない状況も見られる。

（２）指導者の課題

○教材開発　もっと魅力的な運動や場を工夫・開発して提供できないか。

○指導と評価　評価規準の設定にとどまってしまい、いわゆる指導と評価の一体化を目指した授業づくりに課題はないか。

２　健やかな体の育成のために

（１）体力向上のために必要なポイント

○児童が楽しく運動に取り組む、運動の特性に触れる楽しさを味わう。

○楽しく取り組む中で、「技能」、「態度」、「思考・判断」の力を身に付ける。

○取り組んで獲得した楽しさや力を、進んで取り組む意欲、次の校種へとつなぐ。

そのための１時間１時間の体育授業の充実を次の点から図る。

・運動を楽しく行う、楽しさに触れるための教材や場の工夫
・各領域の特性や魅力に沿った授業モデルの実践
　幹となる学習活動、学習の重点
　課題解決的な学習、場面の設定
　指導と評価の一体化を目指す指導・支援の充実

（２）取り組み

○学校の実態に合った年間計画の見直し、修正

○各単元、一単位時間の充実

・前述の必要なポイントを踏まえて。

○体育科のみならず、他教科・領域等と関連しての健康教育の充実

・食育
・足育（足元からの健康づくり　※財団法人日本学校体育研究連合会事業）
・体育的活動（業間での体を動かす活動）

提言テーマ

心と体の調和　そして授業の充実

シンポジスト　秋田県大館市立東中学校　教諭　田村　新一

＜学歴＞

秋田大学教育学部卒業

＜職歴＞

平成８年　小坂町立小坂小学校　教諭
平成14年　比内町立扇田小学校　教諭
平成17年　比内町立比内中学校　教諭
平成23年　大館市立東中学校　教諭

□主な著書・研究業績・委員会等

＜国立教育政策研究所＞

新学習指導要領の趣旨を具体化し深化充実するための教育課程編成，指導方法等の工夫改善に関する研究（平成23・24年度）

保健学習推進委員（平成24～26年度）

□発表要旨

平成23年度24年度に新学習指導要領の趣旨を具体化し深化充実するための教育課程編成，指導方法等の工夫改善に関して研究する機会を頂きました。

２年間の研究してきた中で，今回のテーマである「健やかな体の育成」について考えたときにポイントはいくつかあると考えますが，今回考えるキーワードは「心と体のバランス」そして「授業の充実」です。

１つ目のキーワードとして心と体の調和についてです。健やかな体は，健やかな心と互いに関わり合う密接な関係になっています。生徒指導的な側面もありますが，「早寝・早起き・朝ごはん」といった規則正しい生活を大切にするとともに習慣として日常生活の中で当たり前にしていくということが大事になると考えています。

２つ目のキーワードが特に重要と考えますが，「授業の充実」についてです。

健やかな体を育成していこうと思ったときに保健体育の授業は最も大切な要素と考えます。体力的な向上も当然重要ですが，コミュニケーション能力を高めたり，思考力・判断力・表現力を高めたりすることも健やかな体を育成していく上で大切なことだと考えるからです。

運動やスポーツの特性にふれ，楽しさを味わうという機会を授業で確実に保証することが，生涯にわたって運動に親しむことにつながっていくことにもなるかと思っています。

私たちは，日々の授業の中で体育分野においては「技能」「態度」「知識，思考・判断」の３つの指導内容について指導し，４つの観点において評価していきます。このとき「技能」も勿論大切なのですが，「関心・意欲・態度」や「思考・判断」についても確実に指導し，評価することが大切ではないかと考えています。

例えば学習指導要領解説，指導内容の「態度」の中には「よさを認め合おうとする」とか「分担した役割を果たそうとする」というように指導すべき内容が明示されています。これを授業の中で指導し単元の中で時期を考慮しながら評価していくことが「健やかな体の育成」にも関わっていくのではないかと考えています。

また，保健学習も大切で，最終的にはヘルスプロモーションの考え方につながっていくようにしていくためにも授業を大切にしていかなければならないと思います。

すべての観点で確実に評価できるように授業を充実させていくことは，健やかな体を育成することに留まらず，健やかな心をや豊かな人間性を育むことにもつながってくるのではないかと思っています。

シンポジウムでは，研究で学んだことを基に紹介をさせていただきたいと思います。

提言テーマ

体力向上のためのキーワード
有能感を高め、運動嫌いをなくす授業づくりを目指して

シンポジスト　愛知県立一宮高等学校《定時制》教諭　後藤　晃伸

＜学歴＞
中京大学体育学部体育学科卒業
＜職歴＞
平成11年４月　愛知県立長久手高等学校
平成12年４月　名古屋大学教育学部附属
中・高等学校
平成14年４月　愛知県立西春高等学校
平成25年４月　愛知県立一宮高等学校
定時制

□主な著書・研究実績・委員等
楽しい体育理論をつくろう；大修館書店（共著）
体つくり運動・体育理論リーフレット；文部科学省（共著）
学校体育実技指導資料集第７集「体つくり運動」；文部科学省（共著）
平成20・21・22年度　国立教育政策研究所　教育課程研究センター指定校事業「学力の把握に関する研究指定校事業」高等学校　保健体育（共同研究）

□発表要旨

運動をする子としない子の二極化が指摘されている中、懸念しているのが次の世代の子どもたちのことです。2011年における大学進学率は56.8％（総務省統計局）で、それ以外の生徒は高校卒業後に社会へと巣立っていくわけです。社会でいろいろな経験をし、いずれ親となる人たちも多いと思います。その親の運動習慣や好き嫌いは、まさに次世代の子どもたちの運動習慣につながってくると考えます。そこで、高校が社会への一つの出口として捉え、いかに運動嫌いをなくし社会へと巣立たせるかに焦点を絞って考えたいと思います。

また、体力向上を念頭に置いたとき、体力向上に運動は必須ですが、一過性になってしまうのも避けたいです。運動を継続的に行うには、当たり前のことだと思いますが、やる気が必要です。やる気を支えるためには、運動が好きという資質を育てる必要があります。公教育としての体育といった観点で、主に運動嫌いな生徒をターゲットにした体力向上を目指す授業づくりを考えていきたいと思っています。

さて、体育理論でも触れているように、運動の楽しみ方には「する・みる・支える」といったものがあります。それぞれに得意不得意があると思いますが、ゲーム性をもたせると大多数の人は楽しいと感じるようです。ただ、運動を「する」ことに長けているチームとそうでないチームとが対戦しては、お互いにおもしろくはありません。だからこそ基礎が大事という話になってきますが、ルールを工夫し、ゲームのおもしろみを感じてからでも遅くはないのではないでしょうか。衣食足りて礼節を知るではないですが、満ちてくるからこそ欲求が出てくると考えています。やればやるほど基礎の大事さを痛感してくるものですが、そこまで経験していないものには、経験させてみるのも一つの方法ではないでしょうか。ゲームを行う上での最低限の知識と情報を与え、応用からアプローチしてみる。楽しさを感じながら何かに打ち込んでいる時、人は困れば工夫をすると思います。時にはヒントを与え、待ち、変化を捉え、評価をしてあげれば有能感は高まるのではないでしょうか。ゲーム的な要素には、するだけではなく、みるや支えるといった考える要素も必要になってきます。それぞれにやればできることを増やし、有能感が高まれば、苦手なことにも少しは目が向くのではないかと思います。
意欲を高めさせ、運動好きになって卒業し、近い将来、次の世代の子どもたちと一緒に運動に親しみ、スポーツに積極的な家庭が増えることを期待しています。

提言テーマ

健やかな体の育成を目指して

シンポジスト　東海大学体育学部体育学科　准教授　内田　匡輔

＜学歴＞

筑波大学体育専門学群　卒業

筑波大学大学院

体育学修士課程　修了

＜主な職歴＞

平成６年10月　筑波大学附属盲学校　非常勤教諭

平成７年４月　筑波大学付属高等学校　非常勤教諭

平成８年４月　筑波大学附属聾学校　教諭

平成12年４月　筑波大学附属中学校　教諭

平成17年４月　東海大学体育学部　体育学科　講師

平成18年４月　お茶の水女子大学文・教育学部　非常勤講師

平成24年４月　東海大学体育学部　体育学科　准教授

□主な著書・研究実績・委員等

＜主な著書＞

・体育科教育学入門（共著／2010年　大修館）

・聴覚障害　６月号「体育科の指導における教材のくふう」（単著／2012年　聾教育研究会）

・子どもと発育発達　７月号「全身の力を出して遊ぶ」（単著／2012年　杏林書院）

・幼児期、児童期に育むべき豊かなスポーツライフの素地とは何か（初等教育資料　2013.2）

＜研究業績＞

・保育園、小学校、中学校が連携した生活習慣改善の取り組みについての実践研究（日本発育発達学会　2009）

・発達障害のある児童・生徒の身体活動に関する一考察（日本体育学会2009年）

・発達障害児の身体活動に関する実践研究（日本体育学会2010年）

・大学生を対象としたアダプテッド・スポーツの取り組み（日本体育学会　2013年）

＜委員など＞

・新学習指導要領に基づく中学校・高等学校における保健体育科リーフレット作成協力者　（2010年）

・日本体育学会　評議員（2013年）

＜シンポジウム「健やかな体の育成を目指して」に向けて＞

大学職に就くまでに、中学校、特別支援学校での教科指導や学級担任、部活指導を担当してきた。その経験からも、大学生として成長した現代の若者たちが身に付けている体育・スポーツが、どのような状況にあるのか、喜びや感動とともに観察できる時もあれば、大変厳しい残念な状況に出会う事もある。

健やかな体が育成にむけ、大学で社会にでる直前の学生との関わりから、学齢期に身に付けておくべき体育・スポーツの在り方に疑問が浮かぶ。一方で、障害のある人たちの体育・スポーツ活動では、可能性に着目し、できる事を探しながら「体力」を伸ばす“アダプテッド・スポーツ”が萌芽しつつある。

上手くする、できることは大切であるが、体育・スポーツの価値をその一点だけに絞ると、下手で、できない人に取っての体育・スポーツは、悲惨な状況が生まれる。自戒を込めて、これからの体育・スポーツのあるべき姿を、パネリストとともに考えたい。

特別講演

「スポーツの振興と学校体育への期待」

講師　張　富士夫

（トヨタ自動車株式会社名誉会長・日本体育協会会長）

（公財）日本学校体育研究連合会

講演題目

「スポーツの振興と学校体育への期待」

講師：張（ちょう）　富士夫（ふじお）

トヨタ自動車　名誉会長
株式会社デンソー　監査役
東海旅客鉄道株式会社　取締役
株式会社豊田自動織機　取締役
財団法人日中経済協会　会長

〈略歴〉

昭和 35 年 3 月東京大学法学部卒業
昭和 35 年 4 月トヨタ自動車工業株式会社入社。

昭和 63 年 9 月トヨタ自動車株式会社取締役に就任する。
同年 12 月、トヨタモーターマニュファクチャリングＵ．Ｓ．Ａ株式会社取締役社長に就任する。
平成 18 年 6 月トヨタ自動車株式会社取締役会長に就任する。
平成 25 年 6 月トヨタ自動車株式会社名誉会長に就任する。
平成 19 年 3 月からは、財団法人日中経済協会会長、平成 23 年 4 月からは公益財団法人日本体育協会会長を務めている。
平成 13 年 11 月には藍綬褒章を受章し、平成 23 年 11 月には旭日大綬章を受章している。